

編集後記

東北楽天ゴールデンイーグルスの日本一は、震災から2年8カ月が経過したが宮城、岩手、福島の3県の避難者は約28万9千人に上り、10万人以上が仮設住宅で不自由な生活を余儀なくされている人々をはじめ多くの人々に“元気と勇気と希望”を与えてくれた。夢や希望を持ち続け、諦めず前に進むことがいかに大切かを楽天が教えてくれた。

東北部会学術大会は、福島第一原子力発電所の事故による放射線の影響が住民の心に色濃く残っている福島で開催された。この学術大会も51回を数え新たなスタートの年となった。市民と会員が一体となれる学術大会を目指すなど新しい思考を凝らした大会となり、一般研究発表は141演題と通常の2倍程になった。特別講演では、報道の立場からいまだに原発事故の風評被害に苦しんでいる現状や報道の難しさが語られた。合同討論では、両会の代表から原発事故への対応と今後の展望が語られた。シンポジウムでは、急性期脳疾患に対するCT・MRIの有用性について語られMRI 1stが増えているが24時間体制の問題点等が挙げられた。企画講演では、今後のCT装置の発展には多くの技師の研究・評価等の重要性が語られ、若い技師の奮起を期待したい。テクニカルミーティングでは、各モダリティで基本的ではあるが重要なテーマでの検討が行われ、皆様に一読していただきたい内容となっている。また、一般市民向けで行われたカルチャースクールは、放射線について多方面からの解説が行われ我々放射線技師にも興味深い内容だったので、雑誌に掲載できなかったことが残念である。

今回は、演題数の増加に伴い一般研究発表は1ページに制限したが、良く纏まった原稿を提出していただき、この場を借りてお礼を申し上げる。また、論文化のため掲載辞退の申し入れがあり、今後の後抄録のあり方について検討の必要が出て来た。

楽天を日本一に導いた田中投手は、ヤンキース入団が決定し、活躍の舞台を世界に移した。今回発表していただいた方々も、地方会に留まらず、全国そして世界の学会での発表を目指していただきたい。夢は持ち続ければ必ず叶うものだから。

事務局	公益社団法人 日本放射線技術学会東北部会 〒990-9585 山形市飯田西二丁目2番2号 山形大学医学部附属病院 放射線部内
電話	023-635-5118
F A X	023-628-5799
発行人	江口 陽一
発行日	平成 26 年 1 月 31 日

